

吃音の症状



わわわんちゃんだー



くるま
こ---われちゃった

・・・おそとに
・・・あそびに
いこう！



対応方法を変えても様子が変わらない
吃音が始まってから1年以上経っている
どんどん悪くなる
心配で仕方がない
などがあれば専門家へ相談しましょう

〒277-0004 柏市柏下65番地1
ウェルネス柏
こども発達センター
TEL 04(7128)2223

文責：原 由紀
絵：井上 史子

このパンフレットはAMED（課題番号：167dk0310066j0001,
17dk0310066j0002, 18dk0310066j0003）およびJSPS科研費
（課題番号：22590605）の助成を受けたものです

おこさんが
どもっていると
感じたら



吃音とは

お子さんは、一生懸命お話しをする時、
なめらかにことばが出てこなかったり、
ことばのリズムがうまくいなくなることがあります。

「**ぼぼぼぼく**」のような繰り返す話し方や、

「**ぼ**-----**くはね**」と伸ばす話し方、

「……**ぼく**！」

と言葉のはじめがなかなか出てこない話し方
などがみられます。

これらのことばの状態が**吃音**と呼ばれています。



何が原因？

吃音の原因の多くはお子さんの元々もっている
体質に関係するといわれています。

親御さんの育て方や園での対応が原因では
ありません。

ことばが急に発達する2～6歳ごろに、20人に
1人くらいの割合で起こります。

お子さんによっては、環境の変化や体調など
により、悪くなったり良くなったりする波がありま
す。

多くのお子さんは、成長とともによくなっていくと
いわれていますが、悪化させずに、良くなって
いくことを促すためにも、

適切な対応をとることが大切です。



対応方法は？

**ことばの状態に関わらずおしゃべりが大好きな
お子さんになってもらうことを目指しましょう**

つかえてもさえぎらずに最後まで聞きましょう

聞き終えたら「～なのね」と、話の内容をくり返して
あげることで、最後まできいてもらった満足感と、
伝わったという安心感がもてます。

ゆっくりお子さんの話を聞く時間をもちましょう

兄弟姉妹であらそって話したり、焦っている時はつかえ
やすくなります。ゆっくり1対1でお話ができる時間を
作りましょう。

質問の数を減らしましょう

お子さんは、大人と同じように上手に表現することが
難しいため、説明を求めるとつかえやすくなる場合が
あります

話し方のアドバイスはしないようにしましょう

「ゆっくり」、「深呼吸して」、「落ち着いて」と言っても
理解することが難しいので、大人がモデルとなるように
ゆっくり話してあげましょう。

**得意なことを見つけて、
たくさんほめてあげましょう。
自信を持って生活できるように。**